

Title	島根縣史、島根縣史編纂掛、編纂
Sub Title	
Author	武田、勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1924
Jtitle	史学 Vol.3, No.2 (1924. 8) ,p.176(337)- 176(337)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19240800-0176">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19240800-0176</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

日記、多聞院日記、鹿苑日錄、中世の兵庫に關する文書。次に後者の中に收められたるものは、徳川時代の資料にして即ち

植崎九八郎様御書上之寫、井上文書、桃木文書、工樂文書、綱屋由緒書、南條文書、鷹見文書、増田文書、北風七兵衛文書、南鐸銀拜借願書、神田文書、北風勝次郎文書、楠公碑堂關係文書、橋本文書

本書總頁數約六百にして、他の二卷完成の上は同地の關係資料のほゞ全部を蒐集せらるゝ事となる。實に學界の爲め敬賀すべきである。

(大正十三正月二十一日 武田勝藏)

### 島根縣史(島根縣史編纂)

島根縣史三は「國造政治時代」にして、其の凡例中に左の如く記してある。

本書に記述したる國造政治時代の時限は上神武帝の創業に切り下大化革新に至る間我縣の重要な史實を叙述せり蓋し國造政治時代なる名稱を用ひし所以は此期間は主として國造が地方政治の首腦者たる地位に在りたるを以てなり。

次に本書の目次を参考迄に掲ぐれば、

第一章神武天皇の創業、第二章出雲玉作部及其遺蹟、第三章皇位繼承の變、第四章崇神天皇の治、第五章垂仁朝に於ける出雲

第六章景行朝に於ける出雲、第七章成務朝期、第八章仲哀朝以後反正朝に於ける隱岐と出雲、第九章允恭朝以後推古朝の間、第

十章國造縣主稻置、第十一章屯倉、第十二章冰室、第十三章出雲族、第十四章出雲に於ける出雲族以外の諸氏族、第十五章出雲に於ける御名代部、第十六章出雲に於ける部曲、第十七章石見に於ける諸氏族の分布、第十八章石見に於ける御名代、第十九章石見に於ける屯田、第二十章石見に於ける部曲、第二十一章隱岐に於ける諸氏族の分布、第二十二章隱岐に於ける御名代、第二十三章隱岐に於ける品部及部曲、第二十四章氏族制度に於ける各階級の主從的統制

の二十四章にして章は各々節等に分かれ補遺を加れば其の頁數八一〇に達して居り、猶終に附圖十二を附して居る。本書の編纂は同史編纂委員野津左馬之助氏の擔任せられたるものである。

(大正十三年一月元旦 武田勝藏)

### 須須神社誌(須須神社發行)

須須神社(縣社)は石川縣珠洲郡三崎村大字寺家(能登半島東北端)に鎮座し、古來高座宮、金分宮の兩社を併稱し、又兩社を並べて高座金文兩宮或は金文高座兩宮と云ひ、又地名を冠して、須々權現、三崎大權現、三崎明神とも稱した式内社である。御祭神は、高座宮には天津彦々火瓊々杵尊、其相殿に美穗須々見命を金分宮には木花開耶姫命を、各奉祀して居り、崇神天皇の御宇に創建せられたと傳ふ。

本書は同社の沿革を詳述したる和裝(百〇九枚)の美本である

本書の卷初に高座宮社頭以下兩宮の社殿の寫眞五枚と、同社所藏